



安全・安心



人材育成



産業振興

国際ジョイントPBLプログラム @陸前高田(eJIP.jp)

関西大学商学部とモレロス州自治大学（メキシコ）の学生が、大規模自然災害からの復興をテーマとする課題解決型学習（PBL）に取り組みました。

農業は楽しくなければできない！！
The most important thing is that
AGRICULTURE SHOULD BE FUN!

陸前高田市での最終成果発表会の様子

活動の概要

目的	「プロジェクト実践力」と「異文化適応能力」を備える「異文化適応ビジネスリーダー」の育成 豊かな日墨（日本とメキシコ）関係の構築
連携メンバー および役割	はまなす農園（岩手県陸前高田市米崎町）…研修学生の受け入れ、農作業指導 一般社団法人マルゴト陸前高田（岩手県陸前高田市高田町）…現地コーディネータおよび通訳の派遣 モレロス州自治大学（UAEM）（メキシコ）…研修学生の派遣 関西大学商学部PBL委員会…プログラムの企画運営
活動地域	岩手県陸前高田市
活動期間	2016年4月～（継続中）

連携の経緯

関西大学とモレロス州立自治大学（UAEM）は、2005年に学生交流協定を締結し、これまで主として交換留学生の受け入れと派遣を行ってきた。2015年、両大学は協定締結10周年を記念して、双方の学生が参画できる正課授業「国際ジョイントPBLプログラム（以下、「eJIP」）」を開設。学生交流をさらに深めることを目指し、日墨共通の社会的課題に取り組む共同教育を実施することとなった。

解決すべき課題

- 陸前高田市…震災からの復興の妨げとなる人口流出の抑止
- 学生…プロジェクト実践力と異文化適応能力を磨くことのできるプログラムの開発



参加学生の集合写真

中間発表会の様子

大学の役割

「eJIP」は、関西大学とUAEMの学生が共同で、日墨共通の社会的課題の現状把握と解決策提案に取り組むプログラムで、日本（eJIP.jp）とメキシコ（eJIP.mx）の両国で実施される。「eJIP.jp」では2016年度のテーマを「陸前高田の農業女子と産地直売所の魅力を発信する」に設定。参加学生（関西大学商学部1年生6名、UAEM学生3名）は、8/1～6に大阪でオフサイト学習（事前学習）を行った後、8/26～9/6の間、岩手県陸前高田市でオンサイト学習（フィールドワーク、ディスカッション、プレゼンテーション）に取り組んだ。

フィールドワークの具体的な内容は、農業体験、市内各所での現地調査やインタビュー調査など多岐にわたる。さらに、農業や産地直売所の魅力を発信する冊子「農業女子を増やすためのケースブック」をまとめ、現地でプレゼンテーションも行った。

2016年度の活動地域となった陸前高田市には、耕作放棄地、高齢の農業経験者などの利用可能な資源が豊富に存在する一方、良い働き口や新鮮で安全な作物を求める女性も多い。そこで、本事業は、両者のマッチングによる女性の農業技術向上と販路確保が、人口流出の抑止や主要産業の振興に有効であることに着目した。

また、学習成果として、学生は日常と異なる環境下で、信頼関係を築きながら課題の解決策を構想・立案するレベルまで引き上げること、プロジェクト実践力、異文化適応能力の向上が図られた。今後も継続的に「eJIP」に取り組むことで、日墨関係を豊かにする「異文化適応ビジネスリーダー」の育成に寄与していく。

成果

- 農業女子を増やすためのケースブック（3名分）を作成
- 2016年度のプログラムを完了

今後の展望

- 「eJIP」を継続的に展開。2017年度には、ベトナムの大学からも参加者が見込まれる。



陸前高田市内の震災遺構と復興状況視察の様子

研究者の紹介



商学部 准教授
長谷川 伸
(はせがわ しん)

専門は国際技術移転論。長年ブラジルを研究対象としている。学生時代を仙台で過ごすなど東北に縁があり、3.11後は被災地支援を行っている。
一般社団法人参画文化研究会理事。
日本防災士機構防災士。

プログラムの紹介



「国際ジョイントPBLプログラム」eJIP
(Joint International PBL※ in English)

プロジェクト実践力と異文化適応能力を磨くために、関西大学商学部の学生と海外の大学の学生とがチームを組み、英語を共通言語として社会的課題の解決にとりくむ新しいプログラム。

※PBL（Problem/Project-Based Learning）
…学習者が問題を発見し、その問題を解決するために行動する過程で、経験や知識を得ていく学習方法。